



Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース 第54号 (Vol.14 No.2)
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1984, 54, p. 1-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65615
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

昭和59年度上半期プログラム相談室の担当

昭和59年度上半期のプログラム相談室の担当は次のとおりですので、プログラム相談を受けられる方は、2階のプログラム相談室で相談票に相談事項を記入のうえ御相談ください。

	10:00~12:00	1:00~3:00	3:00~5:00
月	氏名：浜 重一朗 所属：阪大・基礎工学部 専門：FORTRAN・TSS ----- 氏名：浜崎 学 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：浜 重一朗 所属：阪大・基礎工学部 専門：FORTRAN・TSS ----- 氏名：青野 慎吾 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：横田 隆司 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS
火	氏名：那須 雅樹 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・C ----- 氏名：浜田 糾 所属：阪大・基礎工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：鳩野 逸生 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：家本 修 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・SPSS
水		氏名：吉行 健 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：家本 修 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・SPSS
木	氏名：田中 直樹 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：上出 英樹 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：清原 良三 所属：阪大・工学部 専門：LISP・GMAP
金	氏名：小椋 隆 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS ----- 氏名：多田 栄一 所属：基礎工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：武知 英夫 所属：阿南工業高等専門学校 専門：FORTRAN・INQ	氏名：柳瀬 章 所属：大阪府立大学 専門：FORTRAN・ PASCAL
土	氏名：高木 達也 所属：阪大・薬学部 専門：FORTRAN・ STATPAC		

	10:00~12:00	1:00~3:00	3:00~5:00
月	氏名：浜崎 学 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：青野 慎吾 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：横田 隆司 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS
火	氏名：本原 章 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS ----- 氏名：浜田 糾 所属：阪大・基礎工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：鳩野 逸生 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：片岡 栄美 所属：阪大・人間科学部 専門：SPSS
水		氏名：打浪 清一 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・LISP	氏名：家本 修 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・SPSS
木	氏名：森田 浩 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：上出 英樹 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：山田 稔 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・SPSS
金	氏名：小椋 隆 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：北村 義弘 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：柳瀬 章 所属：大阪府立大学 専門：FORTRAN・ PASCAL
土	氏名：高木 達也 所属：阪大・薬学部 専門：FORTRAN・ STATPAC		

プログラム指導員について

プログラム指導員は、大口利用者を有する連絡所または、ジョブ処理件数の多い連絡所のうちで最も利用頻度の高い利用者に対してセンターから依頼し、承諾を得たものです。

遠隔地の利用者で、プログラムの相談等がありましたら、下表の各連絡所所属のプログラム指導員に相談して下さるようお願いいたします。

プログラム指導員一覧表

氏 名	所属及び連絡先	身 分	プログラム 指 導 曜 日	場 所	内 容
富永 昌二	大阪電気通信大学 工学部 精密工学科 〒572 寝屋川市初町18-8 Tel 0720-24-1131(253)	助教授	適 時	研究室	FORTRAN
平野 俊雄	高松工業高等専門学校 機械工学科 〒761 高松市勅使町355 Tel 0878-67-0276	助教授	適 時	研究室	FORTRAN
西田 修身	神戸商船大学 商船学部 機関学科 〒658 神戸市東灘区深江南町 5丁目1番1号 Tel 078-453-2332(330)	助教授	適 時	研究室	FORTRAN
土井 光暢	大阪薬科大学 薬学部 薬学科 〒580 松原市河合2丁目10番65 号 Tel 0723-32-1015(298)	助 手	毎週月～金曜日 午 前	研究室	FORTRAN
小川 喜弘	近畿大学原子炉工学科 〒577 東大阪市小若江3-4-1 Tel 06-721-2332	助 手	適 時	研究室	FORTRAN

氏 名	所属及び連絡先	身 分	プログラム 指 導 曜 日	場 所	内 容
村上 益美	大阪市立大学 工学部 建築学科 〒558 大阪市住吉区杉本3丁目 3番138号 Tel 06-692-1231(3437)	助 手	毎週木曜日 午 後	研究室	FORTRAN
長瀬 久明	兵庫教育大学 情報処理センター 〒673-14 兵庫県加東郡社町 下久米942-1 Tel 07954-4-1101(466)	助 手	適 時	研究室	FORTRAN
平井 國友	奈良県立医科大学 医学部 医学科 〒634 橿原市四条町840 Tel 07442-2-3051(2270)	助 手	毎週木曜日 午 後	研究室	FORTRAN
山田 勝稔	徳島大学工業短期大学部 生産機械工学科 〒770 徳島市南常三島町2の1 Tel 0886-23-2311(457)	助教授	適 時	研究室	FORTRAN
柳瀬 章	大阪府立大学 総合科学部 総合科学科 〒591 堺市百舌鳥梅町4丁目 804 Tel 0722-52-1161(2714)	教 授	毎週水曜日 午 後	研究室	FORTRAN
越桐 国雄	大阪教育大学 教育学部 物理教室 〒543 大阪市天王寺区南河堀 町4番88号 Tel 06-771-8131(230)	助 手	適 時	研究室	FORTRAN
近藤 敬一	阿南工業高等専門学校 電気工学科 〒774 阿南市見能林町青木 265 Tel 0884-22-2010(361)	助教授	適 時	研究室	FORTRAN

氏 名	所属及び連絡先	身 分	プログラム 指 導 曜 日	場 所	内 容
浅田 昌三	神戸女子薬科大学 薬学部 薬学科 〒658 神戸市東灘区本山北町 4-19-1 Tel 078-453-0031(201)	教 授	適 時	研究室	FORTTRAN
堂垣 正博	関西大学 工学部 土木工学科 〒564 吹田市山手町 3-3-35 Tel 06-388-1121(5682)	講 師	適 時	研究室	FORTTRAN
古谷 博史	高知医科大学 情報処理部 〒781-51 南国市岡豊町小蓮 Tel 0888-66-5811	助 手	適 時	研究室	FORTTRAN PL / I
馬場口 登	愛媛大学 工学部 電子工学科 〒790 松山市文京町 Tel 0899-24-7111(3746)	助 手	適 時	研究室	FORTTRAN
杉山 司郎	大阪工業大学 工学部 機械工学科 〒535 大阪市旭区大宮5丁目 1 6番1号 Tel 06-952-3131	講 師	毎週月曜日午前 中、火曜日終日	研究室	FORTTRAN
佐藤 一郎	四国女子大学短期大学部 家政科 〒771-11 徳島市応神町古川 字戎子野 123 の1 Tel 0886-65-1300(118)	講 師	適 時	研究室	COBOL
太田 雅久	甲南大学 理学部 物理学科 〒658 神戸市東灘区岡本8丁 目9番1号 Tel 078-431-4341(283)	助教授	毎週火曜日 金曜日	研究室	FORTTRAN

昭和59年度後期プログラム相談員の募集について

センター内のプログラム相談室では、毎日一定時間内に、プログラム上の問題やセンター利用全般についての相談に応じています。十分なプログラム相談を行うには、毎年相当数のプログラム相談員が必要です。

センターでは、昭和59年度後期のプログラム相談員を下記の要領で募集しますので御協力いただける方、われと思われる方は是非応募下さるようお願いいたします。

記

資 格：当センターの利用有資格者

期 間：昭和59年10月～昭和60年3月

内 容：利用者からのプログラム相談員、当センターで週1回2時間（隔週でも可）

月 ～ 金		土	
①	10：00～12：00	①	10：00～12：00
②	13：00～15：00		
③	15：00～17：00		

待 遇：1. 利用負担金の一定額免除

イ. 任期半年の方 7万円相当（隔週担当の場合は3.5万円相当）

2. マニュアルを一定限度まで無償配布

3. プログラム相談室の端末の利用

4. ジョブの優先処理

応募方法：応募用紙が当センター、豊中DSにありますので必要事項記入のうえ下記宛まで提出して下さい。

〒567 茨木市美穂ヶ丘5番1号（阪大吹田団地内）

大阪大学大型計算機センター共同利用掛

切：昭和59年9月25日

応募用紙の請求及び不明な点については、センター共同利用掛（TEL 06-877-5111 内線2817）までお問い合わせ下さい。

大型計算機利用に伴う利用者旅費について

利用者が、大型計算機センターを利用する場合、地域差を少なくするため遠隔地利用者には、利用者旅費支給の制度があります。これは、大型計算機センターに出張して計算機を利用する場合に旅費を支給する制度です。

利用者で旅費の支給を希望する場合は、下記要領によりセンター所定の申請書を提出してください。（大学院生及び科学研究費による利用者には旅費を支給できません。）

記

○日帰り旅行…第5，第6地区で京阪神地区の利用者（注参照）は、日帰り旅行申請書を利用希望日の前月25日（必着）までに本センター共同利用掛まで提出して下さい。（日帰り出張回数は、1人当月5回以内とします。）

○宿泊を伴うもの…京阪神地区以外の利用者は、申請書を利用希望日の前月25日（必着）までに本センターに到着するように所属連絡所及び所属地区協を通じて提出して下さい。（センター滞在日数は、3日以内で月1回に限ります。）

○旅費は、後日、銀行振込みにより送金します。

○出張利用に関する問い合わせは、センター共同利用掛（06-877-5111 内線2815）までお願いします。

（注）京阪神地区の利用者（日帰り旅行適用者）は次の連絡所に所属する者

（第6地区）大阪府下の全連絡所

奈良県下 “

兵庫県下（姫路工業大学、兵庫教育大学は宿泊の対象となる）の全連絡所

和歌山県下（和歌山高専は宿泊の対象となる）の全連絡所

（第5地区）京都府下（舞鶴高専は宿泊の対象となる）の全連絡所

滋賀県下（滋賀大学（彦根市）、滋賀県立短大は宿泊の対象となる）の全連絡所

注意事項 申請書の記入の際、次の点に御留意願います。

申請者の出張利用の理由欄には、特に本センターへ出張して計算機を利用しなければならない出張理由を具体的に記入して下さい。出張理由が明確でない場合、出張を認めませんので御了承願います。

科学研究費による計算機利用の取り扱いについて（再掲載）

負担経費区分が科学研究費による計算機利用については、下記のとおり取り扱いますので十分御留意の上、申請されるようお願いします。

記

1. 利用申請について

科学研究費補助金の交付があってから申請し、承認するのが原則ですが、研究者の研究計画遂行上、計算機利用が必要な場合に限り、交付内定通知があれば申請を受け付けます。

2. 申請書類について

- (1) 大阪大学大型計算機センター利用申請書
- (2) 大阪大学大型計算機センター利用申請に係るコード表（OCR用紙）
- (3) 科学研究費補助金配分内定通知書の写、又は、所属部局が発行した科学研究費の配分の決定に関する通知書の写

なお、申請者が研究分担者の場合は、科学研究費補助金交付申請書の写も併せて必要です。

3. 提出先

所属の連絡所へ提出してください（吹田地区の方は、直接利用者受付でも受け付けます）。

4. その他の注意事項

- ・科学研究費による計算機利用期限は2月15日までです。したがって、2月15日以降は、ファイルも消去されます。
- ・利用負担金の払込みは、納入期限までに行ってください。なお、2月分利用負担金通知は、3月になりますので、それ以前に年間使用額を知りたい方は、1月31日までに停止申請を行ってください。
- ・科学研究費による利用負担金は、校費による振替えはできません。

（共同利用掛）

注 意

ユーザがシステム利用に当たり使用しているパスワードの内容は第三者に漏れないように、各自がその管理に万全を期して下さい。万一、パスワードが漏れて第三者に不正に使用された可能性がある場合、速やかに共同利用掛へ連絡くださると共に、パスワード変更届を提出してください。

Reduce(第2版)とSLISPの正式サービス開始について(再掲載)

数式処理言語Reduce(第2版)およびSLISPが、昭和59年7月2日から正式に使用できるようになりました。ReduceとSLISPは、それぞれ、東京大学と東北大学から譲渡されたものです。いずれも実行時のモードはRモードであり、TSS処理およびバッチ処理で使用できます。これらの言語を使用される方は、参考文献1)を必ず読んでください。

3.1 使用方法

参考文献1)の使用方法と比較すると、TSS処理の、起動コマンドを下記のように変更し、FORT NおよびBEGIN(77)の入力が不要となるように変更した。

•TSS処理

システム選択レベル(SYSTEM?)またはビルドモード(*)で、次のコマンドを入力すると、それぞれの言語の処理系が起動される。この時点で、ソースプログラムを入力する。

言語名	Reduce	SLISP
コマンド名	\$REDU	\$SLIS

•バッチ処理

Reduce	SLISP
\$ JOB 0000000000 \$PASS,A	\$ JOB 0000000000 \$PASS,A
\$ CPROC REDUC	\$ CPROC SLISP
\$ LIMITS ttt,,,ppppp	\$ LIMITS ttt,,,ppppp
ソースプログラム	ソースプログラム
\$ ENDJOB	\$ ENDJOB

注意事項

- ソースプログラムをパーマネントファイルに登録して使用する場合は、次の\$PRMFL文を使用する。ファイルコードは、05でなければならない。

\$ PRMFL 05,R,S,修飾ファイル名

- \$LIMIT文を省略した場合の既定値は、CPU時間は36秒、プログラムサイズは240K語、出力記録数は5000である。利用者は、プログラムサイズを指定する必要はない。

3.2 使用例

簡単な使用例を作成して、そのソースプログラムを次のファイルに登録している。使用の際には、リードパーミッションが必要である。

UMC/カタログ EXAMPLE/GENGO

サブカタログ	ソースプログラム	JCL
REDUCE	S1	J1
SLISP	S1	J1

Reduce のソースプログラム S1 のリストをとる。

*LIST EXAMPLE/GENGO/REDUCE/S1,R

注意事項

- ・上記の JCL ファイルを実際に使用する場合は、利用者自身の課題番号とパスワードに変更しなければならない。
- ・CARDINサブシステムの応答は、JCLファイルの第1行目に記述しているので、RUN コマンドを入力するだけでジョブの投入ができる。

3.3 使用上の注意事項

- ・Reduceでは、オペレータ1つの実行にも msec の時間を要する場合があります、CPU時間を消費しやすいので注意が必要である。

参考文献

- 1) 山本：Reduce の阪大センターにおける利用について、大阪大学大型計算機センターニュース，Vol.12，No.4(1983)。

(研究開発部)

オペレーティングシステムのバージョンアップ (R11.1) について (再掲載)

7月9日(月)から、オペレーティングシステムをR10.1からR11.1にバージョンアップを行います。以下に主な変更点及び機能追加、強化について説明します。なお、詳細はメーカーのマニュアルを参照してください。

(1) TSSの機能変更

a. ブレーク時の画面クリア中止

従来、N6300系、N5200/05等の画面制御が行われている端末(レベル2A、レベル2B手順端末)において **BREAK** キーを押下すると、画面がクリアされていましたが、今回のバージョンアップより画面クリアをしないようにします。

b. 行番号生成の統一

AUTO, RESEコマンド及びTSCONVにおいて行番号生成の初期値の指定がない場合は、“0010”から生成するように統一します。

c. N6300系端末の端末接続方法の変更

従来、端末の周辺装置(フロッピディスク、プリンタ等)を使用する場合は、**PF6** キーでシステムと接続をしていましたが、**PF4** キーに変更いたします。

対象となる端末は、N6300/50N, N6300/55, N6300/20N, N5200/05です。

(2) バッチの機能変更

a. \$GO文の既定値変更

ジョブ制御文\$GOの言語の既定値が、“FORT”から“FRT77”になります。FORT RANを使用するときは、オプションに“FORT”を指定してください。

カラム 1	8	16	
\$	GO	(FRT77)	①
\$	GO	FORT	②

① FORTRAN 77 (V) を使うとき、オプションの FRT 77 は省略できます。

② FORTRAN (R) を使うとき、オプションで FORT を指定します。

FORTRAN 77 (V) 使用例

カラム	1	8	16
	\$	JOB	kadaibango\$password
	\$	FRT77	
		SOURCE PROGRAM	
	\$	GO	
		DATA	
	\$	ENDJOB	

FORTRAN (R) 使用例

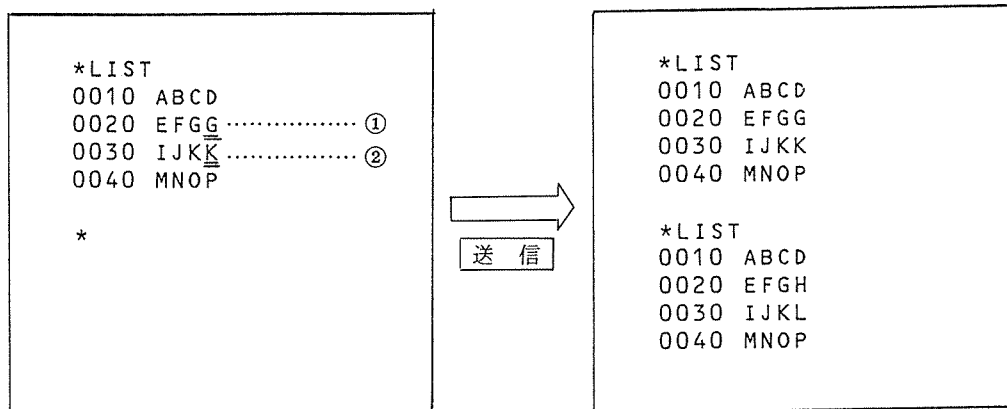
カラム	1	8	16
	\$	JOB	kadaibango\$password
	\$	FORTRAN	
		SOURCE PROGRAM	
	\$	GO	FORT
		DATA	
	\$	ENDJOB	

(3) TSS コマンドの機能強化と機能追加

a. 画面表示テキストの再利用機能

N6300系、N5200/05等の画面制御が行われている端末を使用している場合、画面表示上のテキストを再入力することなく再び利用できるようになります。

この機能により、テキストに誤り部分があった場合、その部分にカーソルを位置づけ修正、挿入、削除などを行い、再び利用することができます。



①②にカーソルを移動させ、それぞれの文字（GをH，KをL）を修正後 送信 キーを入力すると、カレントファイルの内容が修正される。

b. 小文字 / 大文字の変換機能

次のコマンドを入力後は、端末に表示される小文字は大文字に変換して出力されます。

UCASE

なお、“UCASE”コマンドを解除する場合は、“LCASE”コマンドを入力する。

c. コマンドネスト機能の強化

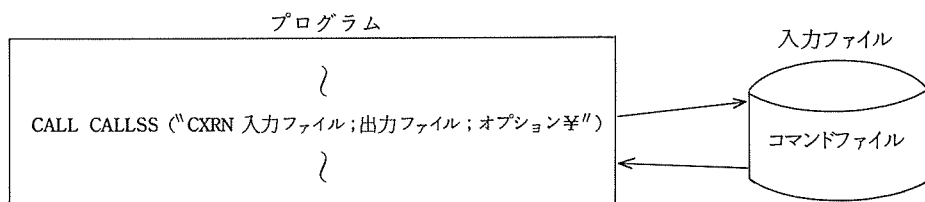
コマンドネスト時（INTERRUPT コマンドを入力し、利用者プログラムの実行中に、BREAK キーを押下した時）は、その状態から復帰して再開する機能しかありませんでしたが、ネスト時に入力できる次のコマンドが追加されます。

TERM …… コマンドネスト状態を終了し、停止中プログラムを終了させる。

BREAK …… コマンドネスト状態を終了させ、停止中プログラムの利用者ブレイク処理に制御が渡される。但し、利用者ブレイク処理ルーチンが存在しない場合は、TERMコマンドと同じ処理になる。

d. コマンドファイル処理の強化

FORTANの基本組込みサブルーチン（CALLSS）からコマンドファイル機能呼び出すことができます。



e. JOUT コマンドの機能強化

1 アクティビティあたり出力可能なレポートコード数が9から18に拡大されます。

f. PTON コマンドの非会話入力機能追加

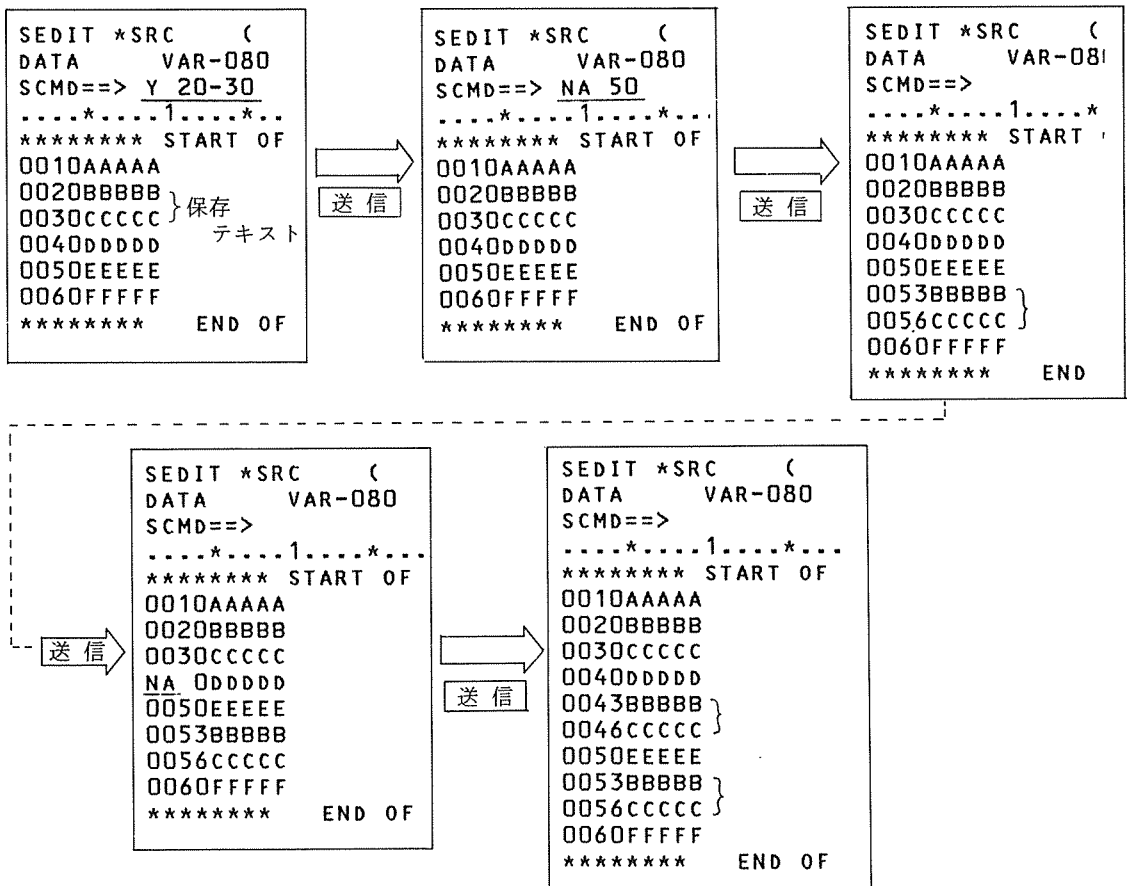
PTON コマンドで1ライン当たりの桁数指定を次のように指定できるようになります。

*PTON LP 132

g. SEDIT/NEDIT コマンドの機能追加

(a) テキスト複写 / 移送機能の追加

テキスト行の複写または移送を行うとき、対象テキスト行をY(copY)または、E(movE)サブコマンドで指定してそのテキスト行を保存することができます。保存されたテキスト行は、NA(After)及びNB(Before)サブコマンドで複数の任意の箇所に挿入することができます。また、同様な機能の行サブコマンドもあります。



(b) サブコマンドのファンクションキー化

よく使用されるLOCATE, DELETE, CHANGE サブコマンドを一度入力すると、以降ファンクションキーにより代行することができます。なおFINDサブコマンドは従来通り **PF9** により代行することができます。

PF6 DELETE, CHANGEサブコマンド

PF9 LOCATE, FINDサブコマンド

(c) テキストのマージ処理機能

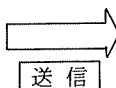
マージサブコマンドで、編集中のテキストと外部テキストを行番号を用いたマージ処理ができます。

(使用例)

外部テキスト(ファイル名W1)

```
0010AAAAA
0030BBBBB
0060CCCCC
```

```
SEdit *SRC      (      ) M
DATA      VAR-080      LIMIT:
SCMD==>  MERG I=W1 LN=Y
.....1.....*.....2.....
***** START OF TEXT ***
0020000000
0030000000
0040000000
0050000000
*****      END OF TEXT ***
```



```
SEdit *SRC      (      ) M
DATA      VAR-080      LIM
SCMD==>
.....1.....*.....2.....
***** START OF TEXT *
0010AAAAA
0020000000
0030BBBBB
0040000000
0050000000
0060CCCCC
*****      END OF TEXT
```

注) 行番号が一致した場合(例の場合0030)、外部テキストの内容に変更される。

(d) 特殊文字の編集機能(ILLCサブコマンド)

画面上では表示できない文字及び特殊な文字を画面上に表示した際、画面が破壊されることがあり、画面破壊を防ぐために特殊文字を表示可能な文字に置替えて画面上に表示したり、編集したりすることが可能になります。

h. RUNOFFサブシステムの機能追加

(a) バトミントンプリンタに関する機能追加

- 文字ピッチ選択機能 .CHARPITCH n(n=10又は12)

TYPEコマンドでNB3300及びNB3500を指定したとき、文字ピッチを10CPI又は、12CPIに様式化されます。

- 改行ピッチ選択機能 .LINEFEED n (n=6 又は 8)

初期ピッチは、バトミントンプリンタの 6/8 選択スイッチに関係なく 6 LPI となり、様式化開始より 8 LPI で行う場合は、テキストの最初に指定しておく、また、改行ピッチの制御範囲は、本文、見出し、脚書き、注釈行単位で行われます。

(b) 診断メッセージ後の用紙合わせ

- NOSTOP n, MESSAG AFTER の指定をしている場合、様式後の結果を印字後診断メッセージを出力後停止する。このまま次のページの様式化を行うと用紙位置がずれるので "POSITION PAPER NOW" のメッセージを出力して用紙合わせを促すようになります。

(c) NOSTOP コマンドについて

- TYPE コマンドのパラメータに "PPR" 指定のときは "NOSTOP" になります。
- 端末に様式後結果を出力しないで、"NOSTOP n" の指定をして様式化すると、様式化終了後端末に "READY" メッセージを出力します。

(d) スペースングピッチと、改行ピッチの有効範囲

- 利用者が入力テキスト内にスペースングピッチと改行ピッチのエスケープシーケンスを入れた場合の有効範囲を下記に示す。

< スペースングピッチ >

様式化時それが現れた時点からその行の終わりまで、又は、.BOLDFACE, .SCORREUNDER, .CHARPITCH の様式制御語 \BF, \SU, \FH, \BH, \HP, \CP のエスケープ文字の直前まで有効です。

< 改行ピッチ >

様式化時それが現れた時点からその行の終わりまで、又は、\UH, \DH のエスケープ文字の直前まで有効です。

(4) プログラム言語一覧

各言語のコンパイラもバージョンがアップされます。言語の処理形態とコンパイラのリビジョン番号は次のとおりです。

言 語	コンパイラ及び リビジョン番号	TSS	パッチ	説 明 書	備 考
ALGOL	ALGOL R004	○	○	FGC02-4 FGC03-6	JIS5050準拠 今回バージョンアップなし
APL	APL R011	○	×	FGL01-3	IBM社VS APLと大巾な互換 今回バージョンアップなし
BASIC	BASIC R004	○	×	FGH01-5	今回バージョンアップなし
C	C R002	○	○	FGP01-2	B.W. Kernighzn, D.M. Ritche 共著の仕様に準拠。 今回バージョンアップなし
COBOL	COBOL(JIS)R012	×	○	FGA02-4	JIS C6205 1972準拠
	COBOL74 R012	○	○	FGA05-6 FGA06-9	JIS C6205 1980準拠
	COBOL74(V)V009	○	○	同 上	同 上
アセンブラ	GMAP R010	○	○	FGE01-5	
	GMAP(V) V008	○	○	FGE02-3	
HPL	HPL R003	○	○	FGN01-2	
	HPL(V) V002	○	○	FGN02-1	
LISP	LISP1.5 R2.0	○	○	FGM01-2	LISP1.5 互換 今回バージョンアップなし
PASCAL	PASCAL R011	○	○	FGK01-3	K.Jensen, N.Wirth共著の仕 様に準拠。アップなし
PL/I	PL/I R025	○	○	FGD04-4 FGD05-5	IBM仕様PL/Iと互換機能
	PL/I R025	○	○	FGD02-4 FGD03-6	ANSI/EMCA標準PL/I準拠

FORTRAN77とFORTRANのバージョンアップ（再掲載）

7月9日(月)から、FORTRAN77とFORTRANのコイパイラを、RとVの両モードともにバージョンアップします。

新コンパイラ

FORTRAN77	Vモード	リビジョン番号V006, コンパイラの大きさ82 kW
	Rモード	リビジョン番号R008, コンパイラの大きさ50 kW
FORTRAN	Rモード	リビジョン番号R013, コンパイラの大きさ38 kW
	Vモード	リビジョン番号V009, コンパイラの大きさ55 kW

FORTRAN77のVモードとFORTRANのRモードについては、以下にその主な追加、変更機能を示します。FORTRAN77のRモードとFORTRANのVモードについては、省略しますから、マニュアルを御覧下さい。

(1) FORTRAN77のVモード

○ARGCHKオプションの仕様変更

副プログラムの呼び出し側と叫ばれる側の引数の個数及び型のチェックを行う。従来は個数のチェックのみであった。

○直接探査書式なし入出力に対する最大レコード長の拡大

FRC形式、UFF形式のいずれの場合にも下記のように拡大される。

$$131071(2^{17}-1)\text{バイト} \longrightarrow 1084576(2^{20})\text{バイト}$$

ただし、\$DDEF文及びRUNコマンドのDDEFオプションで指定できる最大レコード長は、131071(2¹⁷-1)バイトである。

○FRC形式順番探査書式なし入出力に対する最大レコード長拡大

$$\text{磁気ディスク} \quad 1272 \times 1023 \text{バイト} \longrightarrow (CISZ-8) \times (2^{18}-1) \text{バイト}$$

$$\text{磁気テープ} \quad 16376 \times 1023 \text{バイト} \longrightarrow (CISZ-8) \times (2^{18}-1) \text{バイト}$$

ただし、CISZ(CI長)は磁気ディスクでは1280バイトに固定されており、磁気テープでは、標準1280バイト、最大131071バイトである。

○OPEN文のFILE指定子の記述方法の変更

OPEN文のFILE指定子で指定するファイル記述子では、課題番号(UMC)を省略してもよい。省略した場合には、\$JOB文あるいはTSSログオン時に指定した課題番号(UMC)を補ってOPEN文の実行を行う。

○組み込みサブルーチンATTACHの仕様変更

ATTACHの第2パラメータで指定するファイル記述子中の空白を無視するように変更される。従来は、空白はセミコロンと同様にファイル記述子の区切り記号として処理していた。

この仕様変更により、区切り記号はセミicolonのみとなった。

○ FDS オプション指定で作成したRUからの実行の仕様変更

TSS 処理において、FDS 指定で作成したRUからの実行でも、実行時にFDS 指定がなければ、FDS に制御を渡さないように変更される。

○ 多重ファイルの処理の仕様統一

FORTRAN の R モードとの仕様を統一するために、下記の変更が行われる。

① 一度も入出力されていないファイルは、1 ファイル目に位置づけされているものと見なす。従来は 0 番目のファイルであった。

② n 番目のファイルにおいて、EOF が発生または ENDFILE 文を実行した後のファイルは、n + 1 番目のファイルに位置づけられているものと見なす。従来は n 番目のファイルであった。

(2) FORTRAN の R モード

○ FDS の機能強化

TSS 処理において、バッチ互換 R モードで、FDS 機能が使用可能となる。

(3) 注意事項

○ \$FRT 77 文及び \$FORTRAN 文のメモリーサイズの既定値は、コンパイラの大きさに 10 kW を加えた値です。

○ バッチ処理の V モードにおいて、7 月 8 日以前に作成された実行形式のプログラムを 7 月 9 日以降に実行する時には、再リンクが必要となります。

(4) 参考マニュアル

AGB01-1 FORTRAN 77 言語説明書，日本電気（1983）。

FGB09-2 FORTRAN 77 (V) プログラミング手引書，日本電気（1984）。

FGB08-3 FORTRAN 77 プログラミング手引書，日本電気（1984）。

FGB02-5 FORTRAN 文法説明書，日本電気（1982）。

FGB03-5 FORTRAN プログラミング説明書，日本電気（1982）。

FGB05-3 FORTRAN (V) プログラミング説明書，日本電気（1982）。

FGB04-5 FORTRAN サブルーチンライブラリ説明書，日本電気（1982）。

FORTRAN 77 関係のマニュアルは、マニュアルのコードあるいは書名が変更となっています。注意して下さい。

（研究開発部）